



たった一人のためにでも、世界をつなげたい。

**CWS JAPAN**

Church World Service

# NEWSLETTER No. 43



2020年4月発行

## パキスタン/害虫被害緊急支援を開始します

パキスタンではサバクトビバッタが大量発生し、国内の農業地帯における甚大な農作物への被害が報告されています。深刻な被害を受けてパキスタン政府により全土に緊急事態が宣言されて以降、同国南部を中心にバッタ駆除のための措置がとられてきましたが、新たなバッタの群れが周辺国からパキスタンに及んでいること、そして今後バッタが繁殖期をむかえ、すでに産卵や孵化が始まっていることが同地域で確認されたことから、さらなる対策強化のニーズがでてきました。

上記の現状に鑑み、CWS Japanは最も被害が深刻な地域の一つである同国シンド州において、バッタ被害被災農家に対する緊急キャッシュ支援並びに同国政府を通じたバッタ駆除のための薬剤供与を通し、当該農地への更なる被害を食い止め、被災農家の生計回復およびそのための能力強化に寄与するために支援を開始します。

現在、周辺国で大量発生したバッタは、既にパキスタン国内にも侵入し、パキスタン国内において過去30年で最大の被害を発生させています。パキスタン政府の調査では、バロチスタン州の13地域、シンド州の9地域、パンジャブ州の8地域、カイバル・パクトウンクワ州（KP州）の1地域（計985,230ha）でバッタの群れが確認できています（※1）。なお、このうちシンド州だけでも、被害作付面積は68,271ha（※2）にも及び、現地の農家コミュニティの生計に影響を及ぼしていることが判明しています。

（次ページにつづく）

（パキスタン国内対象地で確認されているサバクトビバッタの群れ）



いつもCWS Japanの活動に温かいご支援、ご理解をいただき、ありがとうございます。

Facebook  
twitter  
instagramでも  
情報発信しています！

最後のページを  
ご確認ください☐

特定非営利活動法人CWS Japan

〒169-0051

東京都新宿区西早稲田2-3-18

日本キリスト教会館25号室



public@cwsjapan.jp



03-6457-6840

シンド州はバッタの被害を最も受けている州の一つですが、そのなかでも特に貧困率が高く砂漠地帯に位置するシンド州ウマルコート(※3)は、バッタによる甚大な被害を受けており、今後も更なる影響を受けることが予測されています。干ばつ地域でもあるウマルコートは天水農業のために農作物も限られた期間にしか収穫することができず、また収穫量は天候に大きく左右されるため、バッタによる被害もシンド州の灌漑農業地帯より比較的深刻化しやすいことが見込まれています。また、同地域はインドの国境沿いに位置しており、インドにおいて発生したバッタの大群が同地域に移動し最初に被害を及ぼすリスクが高いと考えられます。

害虫被害が集中し、被害の更なる深刻化が予測されているシンド州ウマルコートにおいて、当事象により既に生計に影響を受けている農家(1,500世帯)による害虫の卵駆除のための耕耘作業に対しキャッシュ配布を行うことで、当該農家に対する生計回復支援と、害虫の卵の孵化を阻止し、さらなる被害を防止するための支援を行います。また、既に孵化・成虫化した害虫による被害の拡大を防止することを目的とし、害虫駆除のための薬剤を同国政府に供与します。さらに作物管理・病害虫管理研修を実施することで、被災農家自身が自主的、継続的に講じることができる予防対策手段を習得し、上記支援の効果の向上および持続発展性を目指します。

(文：プロジェクト・オフィサー  
西澤 紫乃)

## 災害支援のための市民ソーシャルワークガイドブック発刊

この度CWS Japanでは、災害時に地域住民が協力し、助け合う防災体制づくりの一環として、「市民ソーシャルワーカー育成プロジェクト」をNPO法人オペレーションブレッシング・ジャパン、社会福祉法人からだねの2団体とのパートナーシップにより立ち上げ、そのテキストとなるガイドブック「災害時あの人をたすけたい～あなたの町・コミュニティの『市民ソーシャルワーク』実践～」を発行いたしました。



(「災害時あの人をたすけたい～あなたの町・コミュニティの『市民ソーシャルワーク』実践～」の表紙)

私たち3者のパートナーシップは、昨年東日本を襲った令和元年台風15・19号緊急災害支援を機に始まりました。私たちは現場の支援活動の中で、行政による救済支援から潜在的災害弱者・要支援者がこぼれ落ちてしまう現実に遭遇しました。災害発生時には、社会福祉協議会をはじめ地元行政には市民からの支援要請が殺到することにより、最も支援を必要とする脆弱層が助けを求める声を発することができないため、取りこぼされてしまうことを知りました。

災害弱者・要支援者と呼ばれる人々の中には、高齢者、障がい者(身体・精神)、生活困窮者、外国人、傷病者等が含まれます。実は、このような人々の多くは平時から地域コミュニティから孤立しがちな社会的弱者でもあり、災害発生時にその困窮した生活状況が外部支援団体や福祉関係者によって発見・発覚されるようなことがありました。

このプロジェクトでは、ソーシャルワークの理論に基づき、ソーシャルワーカーが普段から用いているスキルの中から災害現場でも活用できる実践的手法を市民が学び、災害時に市民ソーシャルワーカーとして、

自分達の地域の中のそういった見えない人々に支援の手を差し伸べることができるよう、また今後の災害支援活動に参画できるようになることを目指しています。

そのための第一歩として、このガイドブックを制作しました。また、「被災者生活状況調査票」も作成され、ガイドブックと併せて災害時に行う世帯調査で用いられます。

現在は、コロナウィルス感染拡大により、講習会を開催することができない代わりに動画配信を計画中です。

(文：ディレクター 牧 由希子)

## ジャパン・プラットフォーム (JPF) NGOユニット代表幹事に 就任致しました

2020年3月24日の[特定非営利活動法人 ジャパン・プラットフォーム \(JPF\)](#) のNGOユニットでの選挙において、引き続き代表幹事として皆様のご信任を頂きました。

JPFのNGOユニット副代表幹事の一人として2年間、代表幹事として2年間、計4年間を幹事会メンバーとして活動させて頂きました。その中で、日本を代表して緊急支援を行う仕組みである JPFは非常にユニークなモデルであると感じます。NGO 43団体、経済界、政府が対等なパートナーシップのもと、日本の緊急人道支援のスピーディかつ効果的な実施という目的に大変共感しております。

2018年からの2年間で、JPF改革がスタートし、より現場主義のコンソーシアムへと形を変えようとしています。その中ではプログラム戦略会議など、NGOがリーダーシップを取るべき部分が明確化され、それに伴う責任も増えてきました。

国際的にも本当に競争力のある人道支援コンソーシアムになる為にはやるべき事は多くあります。戦後最悪の人道危機が更新されていく昨今において気候変動の影響も増大し、更なる防災・減災の重要性も指摘されています。新型コロナウイルス感染拡大は現在の人道状況を更に悪化させる事が明白で、緊急的な支援が至る所で必要とされています。

私達が今どう行動するかで、今後どんな未来を次世代にバトンタッチしていけるか、大げさに聞こえるかもしれませんが、その様な危機感のもと引き続き様々な意思決定事項に向き合っていきたいと思っています。

今後2年間、JPFが更に迅速で効果的な人道支援を行えるコンソーシアムになり、世界に誇れる仕組みとして認知されるよう、力を尽くしていきたいと存じます。皆様、今後とも継続的なご指導・ご支援を何卒宜しくお願い致します。

(文：事務局長 小美野剛)

**当団体HPでもお知らせしておりますが、  
新型コロナウイルス感染拡大防止への対応策の実施に伴い、事務局への  
お問い合わせはメールにて承っています。**

[詳細はクリック](#)



CWSJapan



@Japan\_CWS



cws\_japan

日々の活動や事業の詳細や支援先の様子などを写真(ときどき動画)でお伝えしています！